

中島地区における鳥獣害対策の取組み ～「えひめ地域鳥獣管理専門員制度」実践活動より～

地域農業育成室では令和元年度、中島地区の大浦、宇和間、二神集落等において、鳥獣害対策として、イノシシに対する箱わなでの夏場の餌の検討、止め刺しにおける電殺器の利用、匠のくくりわな技術等の実証に取り組んでいます。今後、実証成果については集落内で共有し、狩猟者個々の捕獲技術の向上を図ることとしており、集落ぐるみによる対策の内、捕獲体制の一層の強化が期待されます。

なお、本活動は、同地区を担当する普及指導員が「えひめ地域鳥獣管理専門員制度」の実践活動に位置づけており（令和元年度、中予管内ではJAえひめ中央営農指導員2名を含む3名が受講）、担当する指導員のスキルアップにも繋がっています。



集落点検で出没状況を確認



カラマンダリン粉末を夏場の餌として試作し捕獲実証



押しバネ式くくりわなでの捕獲

傾斜をなくし、次世代につながる樹園地を後世に

中予管内では、「農地中間管理機構関連農地整備事業」による樹園地整備が6地区（松山市下難波、浅海原、由良地区及び砥部町砥部地区など）、約52haで予定されています。その内、樹園地整備では県下初の樹園地整備事例となる下難波地区（7.3ha）は、平成30年度から着工し、令和3年春には一部園地で植栽できる見込みとなっています。

管内の整備地区では、工事完了園地から随時17haの柑橘類のハウス整備が見込まれており、国・県をはじめとする各種事業をフル活用しながら支援することとしています。

園地の緩傾斜化や園内道整備、労力分散を可能にする品種の多様化等により、次世代の担い手が、省力化や高収益を実現できる先進的モデル地区としての整備を目指します。



整備計画について協議（下難波地区）



下難波地区の完成イメージ

愛媛の新しいお米 ‘ひめの凜’ いよいよデビュー

16年の歳月をかけて育成した愛媛オリジナルの新しいお米‘ひめの凜’がデビューし、栽培初年度である令和元年産は、管内で15名の認定栽培者が695aで栽培しました。

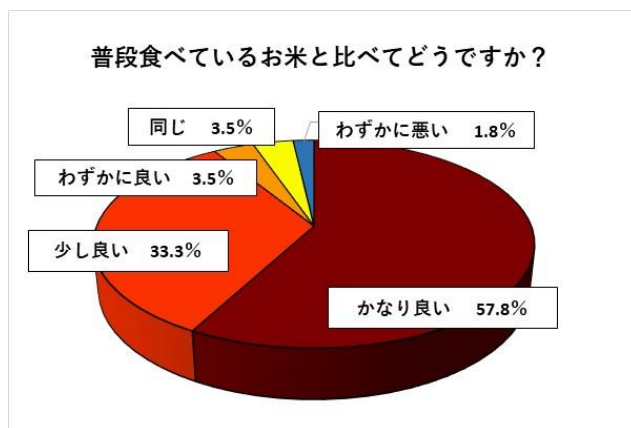
大粒で透き通るように美しく、炊きあがると華やかな香りでツヤツヤ、口にするとしっかりとした噛み応えと上品な甘みがあり、地域農業育成室で実施した「食味アンケート」でも、普段食べているお米と比べ、94.6%の人が、「良い」と回答し、高い評価を得ました。

おいしさだけでなく、夏の暑さに強く、収量が多くて栽培しやすいという三拍子揃った品種です。

今後も品質管理を徹底するとともに、「ひめの凜」が生産者・消費者に広く定着するように生産拡大に努めます。



ひめの凜生産者



食味アンケートの結果
(対象者 57名 JA松山市農業祭で実施)

6次産業化の取り組み支援！！ ～地域ビジネスの展開と新たな経営形態の創出～

県では、農業の新たな経営形態を創出するため6次産業化の取り組みを推進しており、「愛媛6次産業化サポートセンター」(テクノプラザ愛媛内)と連携して経営戦略の策定や人材育成、販路開拓等を支援しています。

中予管内では令和元年度、3名の事業者が「6次産業化チャレンジ総合支援事業」の採択を受け、自家農産物を活用した新商品の開発、製造や訴求力のあるパッケージデザインを作製するなど、販路拡大による農業経営の安定的な発展を目指した6次産業化に取り組んでいます。

6次産業化に関心をお持ちの方は、産地戦略推進室までご連絡ください。



6次産業化プランナーによる
経営相談



魅力的な6次産業化商品が続々登場！